

# 増える家族葬に対応

提携する宮城県内の葬儀場で一般のお葬式から社葬、守人営業部長(56)。家族葬など新規事業の構築やマーケティングを一手に担つており、

で説明を聞いたが、当社が一番寧で、お客様目線が感じたと思つたと振り返る。昨

年9月からは葬儀の司会も務めており、「ご遺族から『いいじられた。自分自身も成長を感じる。とつさの対応力を高めたい』と口元を引き締めた。

塩釜市・仙台市青葉区

少子化などを背景に、葬儀の形は変わりつつある。5月10日に創業205周年を迎える老舗葬儀社「ごんきや」は、近年増えている家族葬にも対応。邸宅型式場の整備を着実に進め、遺族の思いに寄り添い続けている。

自社の葬祭会館をはじめ、

## ショクバ訪問

声を聞いたりして、常に感度を上げている。自由に意見を言い合える社風が強みで、若手の進言で大きく伸びた事業もある」と話す。

昨年2月、宮城県利府町にオープンした同社3カ所目の家族葬用邸宅型式場「デュエリ府中央」の相沢綾子館長(40)によると「この地域では『ごんきや』へのなじみがあり、認知度は高い」。



海洋散骨は20年ほど前から行っている。海への憧れからか、埼玉や群馬といった「海なし県」からの問い合わせも多いという

星さん(24)は入社1年目。「就職活動では複数の葬儀社

江戸時代後期の1815(文化12)年、初代佐藤権吉(ごんきち)が塩釜で荒物と葬具雑貨の店を開いたのが始まり。1980年には宮城県内初の葬祭会館を塩釜市に建設。2015年に創業200周年を迎えた。

現在、直営葬祭会館を14館展開。提携式場は(株)あいあーる葬祭会館「セレモール」が仙台市内に9カ所ある。早くから海洋散骨や現代仏壇販売など、先進性ある事業に取り組んできた。昨年からは貸会議室大手のTKP(東京)と提携し、仙台市中心部の会場で慶弔どちらにも対応する会費制の「感謝のつどい」も始めた。

### ■所在地

▷塩釜本社

〒985-0043  
塩釜市袖野田町24-2

▷仙台本社

〒980-0022  
仙台市青葉区五橋2-8-13

■電話番号(塩釜本社代表)

022(365)5555

■資本金 4000万円

■従業員数 125人



より良い葬儀へ向け、研さんを重ねる社員ら。厚生労働省認定の葬祭ディレクターは現在、29人を数える

「東北ビジネス通信」は、地元で活動する企業の職場紹介やトップへのインタビューで構成するシリーズです。企画・制作は河北新報社販売部022(211)1302。



「ごんきや」のホームページはこのQRコードから

## 東北ビジネス通信

# ごんきや

いんた  
びゅ~

佐藤 知樹  
代表取締役社長



「葬礼文化を守るために、いろいろなメニューを準備したい」と意気込む佐藤社長

さとう・ともき  
5年仙台市生まれ。1975年仙台市卒業。2000年入社。企画室長、専務取締役を経て、父の後を継ぎ、15年に

「ごんきや」8代目に就任  
した。全国法人会総連合青年部会連絡協議会副会長も務める。趣味は料理と海釣り。

ー家族葬に特化した式場に力を入れています。

近年、葬儀は広く周知し執り行うものから家族葬に主流が移りつつあります。時代は変わつても、感謝を込めて故人を送るお葬式の本質は変わっていません。それにふさわしい環境を整えたいと考えています。

富城県利府町で展開している「家族葬邸宅デュエ」もその一つです。施設名は、故人と家族、参列者が共鳴するような感覚で大切な

することを願い、二重奏の「デュエット」から付けました。ご遺族が弔問客の対応に追われる」となく自家

海洋散骨も全国各地から申込みがあり、年間で40件ます。日本三景の松島からほど執り行っています。

一人材育成にも力を入れることを重視し、2000年に入社。企画室長、専務取締役を経て、父の後を継ぎ、15年に

満々の若手まで、多才なスタッフに恵まれています。ベテランの経験や知識を若手が受け継ぎ、そこに業の宝は人だと考えています。50年以上のキャリアを誇る大ベテランからやる気満々の若手まで、多才なスタッフに恵まれています。ベテランの経験や知識を若手なりの新しい考え方を取り込む良いサイクルができます。そこで、「ごんきや」は、さまざまな分野のプロから学ぶ研修制度を生かし、サービス力を向上させていきます。

ー今後の展望は、葬儀だけでなく「見守り、看取り、見送り」の全てに携わる「エンゼルリレー」を確立させたい。そのため開設した訪問看護ステーションを積極的に活用したいと考えています。これからも地域に貢献しつつ、「地域で一番ありがとうをいただける企業」を目指します。